

平成 26 年度 第 1 回静岡市生涯学習推進審議会会議録

1. 日時 平成 26 年 6 月 30 日（月）午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで

2. 会場 アイセル 2 1（女性会館） 4 階研修室

3. 出席者

【委員】（13 名）

猿田委員、菅野委員、渋谷委員、石川委員、弓削委員、林委員、川合委員、市野委員、中野委員、杉井委員、飯塚委員、日野委員、吉田委員

【事務局】

西ヶ谷文化スポーツ部長

生涯学習推進課：大川課長、岸端参事兼課長補佐、島田係長、井上主査、藤本主任主事

4. 欠席者 磯山委員、青野委員

5. 傍聴者 0 名

6. 議題

（1）新生涯学習推進大綱案

7. 会議内容 下記のとおり

猿田委員 事務局より議題についての説明を頂きましたので、大綱案というところに集中して審議したいと思います。事務局へ確認ですが、本日の審議において大綱案と体系図を決定したいということでしょうか。

事務局 大綱案の決定は本日では難しいと思いますが、体系図は本日、審議し、決定していただければと思います。

猿田委員 答申以後、審議会は開催するのでしょうか。

事務局 答申を受けて、大綱案を作り、パブリックコメントにかけます。

その後、パブリックコメントの意見等を踏まえ、最終案を審議する第 3 回生涯学習審議会を行います。

猿田委員 わかりました。そのようなスケジュールも含めて、見通し・合意点を頂ければと思います。いろいろとあろうかと思しますので、まず一言ずつでもいただければと思います。どうでしょうか。

渋谷委員 タイトルには「人づくり」の文言が入っていますが、自分は作られる側なのか、人が人を作るのかと疑問に感じます。

また、基本指針は「学ぶことで、豊かなわたしになります」のは「わたし」が主体で、「私の学びをみんなにつなげます」「みんなの学びを活かして、豊かなまちを作ります」というのは市民主体の表現になっています。

そのため、大綱の中に二つの違う主体があるように見えてしまいます。

石川委員 生涯学習大綱の内容は、非常にわかりやすい言葉で理解しやすいが、綺麗ごとという印象を受けました。

生涯学習は、いかに市民の方に参加していただいて、その参加していただいた成果をどういう形で表現していただくか、そういったことが一番大切だと思います。

ですので、もっと参加しやすい事業があればもっと生涯学習が進むのではないかと思います。

また、スポーツの分野の話になるのですが、高齢化社会の今、高齢の方達にとって、いかに健康増進・健康維持に努めていくかということは、一番の関心事項だと思います。

ですから、スポーツ事業を担当するものとして私たちは普段からそういったことをいつも念頭に置き、スポーツ事業や講習会などの事業を考えています。

そういったスポーツと生涯学習全体の事業を結び付けて、いかに参加していただくかなどのことをこれから真剣に考えていきたいと考えています。

弓削委員 「静岡☆希望の人づくり」というタイトルは、かなり斬新なチャレンジだと思います。

人づくりとまちづくりの重なりを意識していると感じましたが、その割には少しまちづくりの視点が薄いと感じました。

表の中では、実践するのが文化や活動を満たすにとどまっていて、まちづくりをイメージする言葉があまりないので、もう少しまちとの関連や市民参加などを入れる必要があるかと思います。

基盤づくりとまちづくりが一緒なのかというと、必ずしもそうではないのかなと感じますので、まちづくりの要素は必要だと思います。

また、学びの効果をより向上させていくというところでは、PDCA サイクルという言葉が市民にわかりやすい言葉なのかということが気になりました。

林委員 私は非常に理解しにくかった。行動計画の主体者は誰かと疑問を感じました。

今までの審議の内容を、市民の方々にすっと入っていくようにわかりやすく作っているのはわかりますが、この大綱の主体者は誰かということを非常に疑問に感じました。

例えば、基本指針に「学ぶことで、豊かなわたしになります」とあり、確かにこれは市

民のために作る計画ですが、そのための土壌作りをするのはあくまで静岡市、行政ではないかと思っています。そのため、「わたし」という言葉の使い方は、大綱の目的に合うのかという疑問があります。

それから、理念も非常にわかりやすいですが、最後の「こと」という言葉が、誰が市民に示しているのか、というところをわかりにくくしているのではないかと思います。

「こと」をとってしまえば、理念としては非常にわかりやすくなります。

市民目線から大綱を示す場合でも、あくまでも静岡市としてはこのように考えていますという風に示していくものではないかと思います。

他市の例をとりますと、菊川市の場合は、行政と市民の双方が、市の示す理念を受けて私たちはこうしますという表現になっています。行政として取り組む方向を示すものと、市民として取り組もうとする方向の両方を示したものです。

そのようなことから見ると、この大綱は市が主体ですから、「豊かなわたし」になりやすではなく、「わたしになるようにわたしたちは応援します」という方がよいように思います。

川合委員 わかりやすくまとめてくださったというのが第一印象です。

基本指針の「個人の自立」「人と人とのつながり」「地域づくり」を、読めば読むほど、生涯学習から豊かなまちを作るところまでつなげていく経緯の難しさを感じました。

それと、私も行動計画の主体者は誰かという疑問をすごく感じました。

豊かなまちを作りますという文言を考えた時に、その重さと主体者をどこに置くのか、その見極めをしっかりしないと基本指針はなかなか難しいと思いました。

また、指針の順序が「知る・学ぶ」が一番上、「活かす・実践する」が真ん中、「基盤づくり」が一番下になっているが、この順序制をどのように考えるのか。

基盤づくりをまちづくりに置き換えて考えてみると、基盤づくりが一番上にくるのかも思います。

市野委員 人と人とのつながりを大切にしているのはわかるが、ぱっと見た時に、一番なにを伝えたいのか・なにが言いたいのかかわりにくいところがあると思ったのが第一印象です。

吉田委員 問題はこれを受けて具体的な施策に結びついていくかが大切だと思う。

例えば、基本的な方向性の部分に成果指標がある。これはPDCAを回すポイントになるが、具体的なイメージがまだ入っていない。

基本的な方向も表現はいいと思うが、具体的な施策との結びつきが難しいと思います。

例えば、市民意識調査でいくと、生涯学習に携わっていない人の数が非常に多いとありましたが、調査をもとにした指標ですと、PDCAを回しづらいと思います。

どこをどう改善していったら参加率があがるのかなど、もっと具体的な行動に結びつい

ていけるような指標が必要になってくる。ただ、指標を設けることはとてもいいことだとは思う。

もう一点ですが、札幌市の生涯学習センターでは、図書館や市が経営している美術館とネットワークを結んでいる。美術・学校・スポーツなどのネットワークと、どう市が行っている様々な事業に生涯学習が関わってくるか、少しでも関わってくる部分があればそれを一つのネットワーク化する。

大施策、中施策、小施策に至るところでは、そういった基盤づくりのネットを少し広げてみることも必要かなと思います。

市は、学習センターで生涯学習を行った何千何万に近いかもしれない人たちが地域に出て行っているのか、または自分たちだけで終わっているのかをしてみる必要があると思います。

日野委員 基本的な方向・基盤づくりのお話の中で、学びのサイクルを上手に回すには動きのある学びがキーワードとおっしゃっていました。

学んだことをどのような活動で活かすことができるのか、学びと活動ですね。

学んだらそこで終わりではなく、その後のフォローどうしたらいいのかということがキーワードかと思います。学んで終わりではなく、それを外に向けてどのように発信していくかで、人というものは育っていくような気がします。

なので、生涯学習施設も講座を実施して終わりではなく、そこからどのような市民活動に結びついているのかということも重要だと思いました。

参考資料として、生涯学習センターと清水地区の生涯学習交流館の平成25年度の事業実績報告を頂きましたが、これを読んで、次回の審議会はこの内容を分析する話し合いにできたらいいなと思っています。

キーワードはやはり共催事業。どこで共催事業をしているのか見てみると、見えてくると思います。市民団体とやっているか、公の関係機関との共催事業かで、広がりが見えてくるのではないかと思います。

飯塚委員 基本指針を中心にお話ししようと思います。意味はわかりますが、言葉の使い方が難しいと思います。

指針1としては、自己実現を応援できるほうがいいのかと思います。

自己実現とは、他者と学ぶことや、学びを活かすとその成果が自分にも返ってきて、社会の一員としての自覚ができることだと思うので、指針1は自己実現を応援できるというテーマのほうがいいのかと。

2つ目は、社会貢献ができる・学んだことを活かせる、そのフォローアップができるということがあればいいと思います。

最終的には、大綱の中に共生とか協働とか希望という言葉が入っているので、「希望や共

生のあふれるまちづくりと一緒にやってみませんか」と入っているといいのかと思いました。

杉井委員 先程、林委員の話でもありましたように、主語が「誰が」がわかりにくい。

特に、基本的な方向「知る・学ぶ／活かす・実践する」までは市民が主体だが、基盤づくりは行政が行うものであり、そこで主体が2者いることによって、主語がわかりにくくなってしまっている。

生涯学習をして、自分が豊かになり、さらに仲間とともに共有でき、社会の中でも還元できるというのは大変理想的なことではあるが、あまりにもこれを全面に出しすぎると、生涯学習をしたからには地域に還元しなさいよと言われていている感じがしている。

生涯学習はもっと多様な学び方があり、気軽にできた方がいい。

求められると取り組みにくくなってしまわないかと懸念している。

市民意識調査をみても、生涯学習に取り組んだ人を見ると、「人生豊かにしたい」と感じている人が圧倒的に多い・・・市民の生涯学習を始めるきっかけはこれが多いと思う。

地域を豊かにしようと思って公民館の講座に出たりする方は、本当に意識の高い方だと思います。

段階的に、学んだことを共有化し、社会に活かせていけたらいいですねということはいいことだと思いますが、初めから全面に出してしまうと敷居が高くなってしまわないかと思います。

特に生涯学習推進大綱の説明の中で、生涯学習をより多くの皆様に広めていくためにも・・・というところで、その締めくくりが人とのつながりとか一人ひとりの生きがい、学びを活かす活動を、大切に人づくりを進めていきます・・・ここの飛躍がすごい。

私たちが求められている市民力とは、なんなのだろうと思ってしまった。

少し段階的に、生涯学習率が低いからもっと気軽に生涯学習に取り組んでみましょうということを前面に出していった方が、市民にはわかりやすいのではないかと感じました。

中野委員 学びのサイクルの表の動きがわかりやすくなってさすがだなと思った。

体系図を見た時に、理念の「いつでも、どこでも、だれでも学び、豊かな人生を送ることができる」というところの「学び」を「学べ」に直した方がいいと思いました。

大施策に仕事や生活に活かすとあるが、さらに社会に活かせるというのがあったほうがいいと思います。

大きな目標にまちづくりとありますが、ボランティアをする楽しみっていうのは、やっている自分自身も楽しいのですが、誰かに喜んでもらえたり、役に立ったなと感じるところにも喜びがあると思う。なので、社会で活かせるものがあるといいと思う。

また、多様な担い手って誰の事だろうと思った時に、資料を見るといろいろな人、子供も大人もとわかるんですけど、担い手という言葉が少しわかりにくいなと思いました。

言葉としては、PDCA もわかりにくかったと思います。

菅野委員 大きなところで人づくり、全体の計画や市のご意見もあると思いますが、再考の余地があると思いました。

基本指針については、個人的には好きです。

修正の方向によっては、指針①は「学ぶことで、豊かな個性を作るために、その作るということを支える表現」にし、指針②は「協働の学び」に言い方を変換することで乗り越えられる問題であると思います。

視点がどこか、主体がどこかというのは軽視できない問題であり検討すべきと思いました。

先日、全国の政令指定都市の社会教育委員の方々が集まって情報交換しました。

その中で、生涯学習関連の大綱やプランの話聞いたが様々でした。浜松市は市長部局にあり、札幌などの他のいくつかの都市は、生涯学習推進大綱は社会教育委員の集まりでできている。どちらがいいというわけではないが、市長部局の方で持つ施策の総合性という観点と、教育委員会が持っている教育という観点、双方の補い合いが必要かと。

そのバランスを各市とも組織の中で苦労しながらやっているというところがある。

教育に強いところでは社会教育と学校教育と家庭教育の連携に主軸が置かれますし、総合行政となると、福祉方面などに広がりを持つ。この両方の関係を大切にしていきたい。

そう考えると今回は教育的な観点が希薄なのかと。

現段階では、市長部局と教育委員会との間のパイプがつまっていると感じたため、そこはもうちょっと活かせるならいいなと感じました。

猿田委員 ここで、一度、事務局の方から意見をお願いいたします。

事務局（藤本） 生涯学習を推進していくのは誰なのかというところの意識の統一について、議論していただければと思います。

大施策に掲載される事業は、確かに行政の事業になりますが、生涯学習社会の実現を考えると、生涯学習を進めていく主体は、本当に行政だけでいいのか思うところがありますので、行政が主体となって支援していく・推進するという風を書く方がいいのか、違った書き方のほうがいいのか。ご審議をよろしくお願いします。

事務局（大川） 静岡市では人口予測で、今後、20%ほど人口が減っていきだろうと予想されています。

その中で、静岡市が活力を持つためのまちづくりをしていきたい、そのまちづくりをするためには人づくりが必要だという信念のもとに、市長からは人づくりを考えてほしいという話がありました。

生涯学習施設においても、その信念を周知するため、施設長と直接話す機会を持ち、現場職員とより強固な繋がりを作ろうと思っています。

それと、今大学との連携の講座を開催させていただいています。

今まで、市と大学で取り組んでいた事業ですが、そこに指定管理者にも入ってもらおうと思っています。

より高い専門性を持つ大学の先生方との事業は指定管理者にとってとてもプラスであると思っています。

また、大学の自主講座に関わってもらうことで、指定管理者自身のネットワークを広げていきたいとも思っています。

生涯学習は、自分だけでいいのかという問題ですが、自分だけでもいいですし、それが広がってまちづくりや地域の課題の解決づくりにつながってくればいいなと思います。

生涯学習推進課では、人材養成塾をやっています。

塾生は、卒業後、NPOや市の審議委員になったりしていますが、まちづくりという視点が少ないと感じています。

次期人材養成塾では、地域を引っ張っていけるリーダーづくりをしていきたいと思っています。

それと同時にコーディネーター・・・人と人をつなげる、そういう人たちも作っていききたいと思っています。

そういう中で生涯学習推進大綱「しずおか希望の人づくりプラン」が活用できたらいいなという思いでこのプランを作っているということをご承知いただければと思います。

猿田委員 私は当初、体系図案について、最終的な同意がとればよいなと思っていましたが、多岐にわたったご意見が出ましたので、見直しの方向について同意ができればいいのかなと、議論のゴールの修正をさせてもらいたいです。

大きくいくつか見直しの方向点があったかと思いますが、例えば、大綱の書き方の問題として主語をどこに置くのかということを含めた、行政が主体となるあるいは、市民主体とするのか、その辺が一つあると思います。

2つ目はテーマに関わってきますが、人づくりの表現について方向ができればと思っています。

あとは、教育の視点がやや薄いのかというお話もありました。

これは、今後、基本計画の中で味がついていくかなというところもあります。

たしかに現状では、教育の視点で、社会教育の役割、学校教育の役割、家庭教育の役割みたいなよくある生涯学習論が見られない。

特に発達段階に応じたどういった支援が必要なのか。青少年、成人、高齢者という視点もやや薄い。

その事案について、この大綱のほうに味をつけていくというのであればそうしていただ

き、基本計画に譲るといっているのであればそれはそれでよろしいかと思ます。

基本的な方向のうち、基盤づくりというのは、知る・学ぶにも関わるし、活かす・実践するにも関わる。学習に関わる市民の役割・行政の役割もある。そういうマトリックスみたいな考え方で整理したほうがわかりやすい。

理念に具体性を持たせたものが「基本指針」だと考え、「基本的な方向」というものは政策体系を位置づけるものだとすれば、そこで行動の主体となるのはだれかという話と、市民憲章的なものにしたいという話が混ざり、大綱の性格をわかりにくくしていると思ます。

その他あるかと思ますが、少し整理させていただきました。さらにご意見を頂ければと思ます。

吉田委員 主体はどこかというところが一番大事な根っこのところになると思ますが、生涯学習の一番の精神が、個人の自発的な行為にあるように思えます。

行政ができることは、個人の自発性を啓発することが第一、さらにその環境を作ってあげることが大事だと思う。

行政ができることは、啓発していくこと、サポートしていくこと、環境の整備・提供していくこと、、あくまでも、生涯学習の根本は一人一人の自発性にならなければならないと思ました。

猿田委員 今のご意見は、市民目線の書きぶりはとても評価できるということですね。

先程の中にもやはり内発的なものが基盤にならなくてはならない、義務感が感じられるような学習だと、やや息苦しい、堅苦しい。そんないろんなイメージが市民の中にあるのかなと。そういうところであなたは生涯学習していますか？と聞かれてもなかなかそう言い切れない。

自分がやっているのは、学習性のあるものかもしれないですけど、自分ではそう思えない、敷居が高いというか上がっているというか、そういうところがありますので、もっと気軽に取り込めるものだということを伝えていきたいですね。啓発がとても大事なことかなと。

生涯学習という言葉になじみがないので、「ひとづくり、希望のひとづくり」という風にするという考えもあれば、なじみがないものなので、「生涯学習」という言葉のより正しい理解を促すよう強調して、生涯学習の考え方を世に普及すべきであるという考え方も、両方できるかなと思ます。その辺のタイトルと記載の仕方はどうでしょうか。ご意見ある方はいますか。

石川委員 生涯学習とはご存じのとおり、かなり広い範囲の活動、いろんな勉強が含まれていると思うんですけど、そこには交流館などで講座を学んだり、(それ以外に) いろんな

ところでいろんな勉強をすること、(他にも)大綱の基本指針からイメージをされるような、ボランティアで清掃活動をしたり、汗を流したり、それも生涯学習の一つになると思うのですよね。

「学ぶ」ということは、全体をしめる中でウェイトがあるとは思いますが、生涯学習全体をとらえる中で、理念における「学ぶ・学べ」が適切かどうか疑問です。

猿田委員 生涯学習の理念において、今の文化、スポーツ、ボランティア、様々な市民活動、そこに学習性のある活動があったり、学びの中につながりがあると。

そして、それがゆくゆくはまちの発展にもつながっていくのだというような、理念の確認の中で見直すこともできるのかなと。

石川委員 学ぶということについては、組織的な学びとそれから個人的な学びと理解していますが、スポーツもボランティアも個人、それから組織的なものがあります。

ただ、組織的な学びも、個人の自発的な学びも同列の学びということだと思います。

生涯学習は、広い意味の学びと理念上は取れると思います。ただ、一般の人達がこれを見た時にそう解釈してくれるかどうか疑問ですね。

中野委員 補足的なものがあるといいですね、説明ができるようなものをつけたほうがいいです。生涯学習とはこういったものですよ、と解説するページがあればいいのかなと思います。

猿田委員 大綱の中に、市民向けのコラムみたいな感じで用意をするとよいかもしれませんね。印刷、広報の段階で、工夫できる余地は多々あると思いますし、市長への答申でも少し整理して書いていくこともできなくはないかなと思いますので、貴重なご意見として参考にさせていただきたいと思います。

飯塚委員 基本指針の部分で、誰が学ぶかという主語が出ていますが、市民意識調査では「したいと思うができなかった」という人の割合がかなりありますし、「したことがない」という声もあるので、「生涯学習をする」というより「学びの機会の充実」が指針の中で1番にあるとどうかなと思います。

学びは大切とわかっているけど、その機会とかきっかけがつかめないで、そういうことを促すように市としては応援しますよっていうのが1番に入っていると受け入れやすいのかなと私は思います。

林委員 私もその通りだと思います。

大綱とは、初めに、静岡市がこうしますとか、市民が生涯学んでいただくために、こう

いった計画にしたいということを示すというものはずなんです。

だから、主語という言葉は、私は使わなかった。

これを作る主体はどこにあるのかということです。主体はあくまで静岡市ですよ。

そうしますと、基本理念を例えば直すとしたら、「いつでもどこでも誰もが学ぶ機会を得て豊かな人生を送る」とか「学んだ成果を活かし、みんなで共にまちを作る」という風に言い切りをしておけば基本理念で使えると思います。

そうして、基本理念を整理しておいて、指針を見直していくという作業をしていただいでいったらと思います。

そこから、スポーツが入っていないとか、出てくるかと思いますが、そういうことを含む文章・言葉にもう一度整理をする。それから、指針を整理していかれたらいかがでしょうか。

市長が人を大切にする、人づくりを大切にするのも前文で十分読み取れて、そして基本理念のところも教育基本法を基にして考えられているというのもわかるんですが、それをより市民によった文章にしたので主体がどこかわかりにくくなったと思います。

ですから、まず基本理念をきちんとしておいて、そのために3本の柱はどうするのかと整理していかないとまとまってこないんじゃないかと思います。

主語ではなく主体、大綱を作る人は誰かってことに返らないとまずいんじゃないかかと思ひます。

猿田委員 今伺ったことは修正に入るお話しじゃないかと思ひます。事務局の方にもご検討いただければと思ひます。

主体をはっきりさせて、基本的な方向とそれにぶら下がる施策、こここのところをもう一度整理し直すことも大切かなと思ひます。

学習と活用の循環というところが、少し生涯学習の理解の本質的にかけているところではないかと思ひました。

活用っていうのは大それたものではなくて、学んだ成果を自分なりに出していく作業をしないと次の学習課題も発見されないのですね。

例えば、誰しも英語を学べば、海外旅行に行つて少し成果を試してみるわけですよ。

そこで自分はまだまだ足りないなというところで、それを次の学びの動機に繋げていくということが学習と活用の循環だと思ひます。

ですから、飯塚委員がおっしゃつたような大きな自己実現、社会貢献やまちづくりにつなげていくという大きな循環は当然あるんですけど、それだけではなく、個人内の本当に小さな活用が鍵になる。

その活用っていうのは個人的な活用や公共的な活用もあつて、活用という考え方がまだ市民の方に伝わり切れていないんじゃないかなと思ひますので、その点のことも理念の中にしっかりと分量をとつて入れていく必要があるんじゃないかかと思ひしています。

その他、基本的な方向と大施策、体系図のあたりでさらにご意見があればお願いしたいと思います。

渋谷委員 基本指針は、市がやることと言うよりは市民憲章的な作り方をしたっていうお話がありました。ビジョンやイメージだったり、ある種理念に近いような部分、こうありたいというイメージ図のような気がするんですね。

これに対して市民はどう動けるのか、行政はなにができるのか。行政が、なにができるのかに対して、基盤づくりというところがあるんですけど、知る・学ぶかつ実践するところに、行政がなにを実施するのかというところがあまり見えてこないところに、この基本的な方向のわかりにくさがあるんじゃないかと思いました。

基盤づくりは行政がやるんだなとわかり、行政のチェックリストとして作れる部分なんですけど、知る・学ぶかつ実践する・・・これは個人の達成目標みたいになっていて、これも行政の目標となるとどうなるのか。

前回話で出たのが、4ページの個人がいろいろやったりする、やってない方もいますけど、やっている方がいて、一緒にするけどそれを最後に濃い緑色にするのは難しいよねというお話があったと思うのですが、それを市がどうサポートするのかというところが市の施策、行政の関わりとしてあってもよくて、それも見えてないところ、ここだけは市民の活動のこととか目標のようになっているところに少しずつが見えるのかなと思います。

例えば、ランニングをやっている方がいて、一人でやっていてすごくよかったんだけど、何人かと一緒に走るようになってきて、サークルができて、今度みんなで集まってあるチームでジョギングをしましょうってなった時に、一緒に走ることはできるが、次にみんなを巻き込むことはこうこうしてなければいけないとかそういうことで一歩ハードルが高いとか、そういう部分を誰かが教えてきたりするような部分を市が応援するだとか、この施策の実現に向けて市がなにをするのかというところがもう少し出てくると逆に理念的なものとの市民の役割と行政の役割が見えてくるのかなあとと思います。

なので、この基本指針はどちらかと言うと理念的なものとしてとらえた上で解決した方がわかりやすいのかなと思いました。

猿田委員 大綱を見ますと見出しが基本的な方向・基盤づくりとなっているので、方向の中に基盤づくりが入っているというよりも方向点が2つで、基盤づくりはまた別のものなんですよね。

2つの方向にぶら下がっている大施策っていうのはこちらの提案事業一覧の参考資料を見ますと、個々の部局ごとの具体的な事業案、主に学習機関に関わる場所なんです。

知る・学ぶにも基盤に関わる場所がある。活かす・実践も基盤に関わる場所がある。やっぱり2×2の類型で大施策を整理するというのが正解のような気がしてきましたが、いかがでしょうか。

杉井委員 行政がプランの中でできることとは推進したり、環境整備の部分だと思うので、やはり基盤づくりは「知る・学ぶ・とか活かす・実践する」の中に入ってくるものかなと。

3つでもう一つ入るものではないんじゃないかなと思うので、基本的な方向は2つで基盤づくりの部分はそこに入れ込むでいったほうがいいのではないかなと思う。

猿田委員 私は多少すっきりしましたがみなさんはどうでしょうか。なお、これだけはというものがあれば、そろそろ閉じる時間になってきましたのでなにかございましたらお願いします。

菅野委員 私もおかげさまでだいぶすっきりしました。

大施策の中の基盤づくりにある「誰もがアクセスしやすく・・・」などは、他の施策に分散して、対応してもいいような内容です。

これはこれで素敵な図なんですけど、場合によっては、左右1：1の対応にはしないで表すか、あるいはこのままに生涯学習補助本用にしてしまうか、この図に不足したものとそれをつなげていく方向とで分けて書くことができればいいんじゃないでしょうか。

残る問題は学ぶとか活用、そんな御大層な敷居の高いものではないと文章の中に書き込んで、もっと身近な・日常の・日頃のと言う風に啓発していくことも大切かと。

学び・生涯学習を大綱からは下げてというあたりは難しい問題もありますんで、ご意見いただいて最後は会長・副会長で決定するというような方向でいかがでしょうか。

猿田委員 タイトルについて、絶対人づくりを残すべきだというご意見がなおあればそちらは出していたきたいです。

中野委員 人づくりと言われると、個人としては作られるイメージがない。

上から見たら作るのかもしれないです。まち全体としては作りたいというのはすごいわかるんですけど、私自身は、作らされるのかと疑問に感じちゃうので、あんまりいい印象はないです。

猿田委員 事務局の最初のご説明の中にも、市民力というお話を市長さんからいただいているということで、人をつくるというより、市民力を高めるとか、向上させるというとかや安心するのではないかなと。

市民の内的動機を高めながら、英会話の例でも言いましたが、一人で学んでいるものを旅行で活用してそれを楽しむということもあるし、なにかをやるんだったら何人かで一緒にやりましょうよっていう協働性の方向を生涯学習の推進としては奨励したいと思います。

そうやってグループで学んでいる方が、まちづくりにも関わるように進んでいけば、個人、団体さらには、まち全体への波及といった循環が生まれる。

そういったことを目指すのが静岡市の生涯学習推進と思います。

市民は一度にそこまでいなくて、一人ひとりの学びに対する生きがいのような参加、市民参加というところをさらに引き出していったり、あるいは、子どもたちを静岡市がどうしていくかと話は市議会ではあまりしておりませんが、重要な話だと思いますので、そういった生涯学習に関わる各論といったものを入れていかないと、理念だけで押し通してしまうと、本当に机上の空論になってしまったり、親しみやすく書かれていても、非常に抽象的でわかりにくい。

具体を入れていかないとわかりやすくはならないと思います。極端に分量を増やす必要はないと思いますが、会長・副会長、また委員の皆様にお知恵を出していただくような形で、この大綱案をブラッシュアップしていく、肉付けをしていくという風にさせていただければと思います。

また8月上旬頃にご確認いただく機会があろうかと思いますので、そこに向けて作業を進めさせていただこうかと思います。

一応、そのようなまとめをさせていただきまして、お時間、ご協力に感謝を申し上げて、審議会を終わりにさせていただきます。

平成26年 月 日

署名人